

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------|------|------------|
| ○事業所名 | こだまクラブ | | |
| ○保護者評価実施期間 | R8年 2月 24日 | | R8年 3月 23日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 22家族 | (回答者数) 10通 |
| ○従業者評価実施期間 | R8年 2月 19日 | | R8年 3月 9日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 9名 | (回答者数) 9通 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年 3月 12日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 社会参加体験や季節を感じる園芸や行事に関わる活動。 | 公共交通機関を利用したお出かけの実施。買い物は買いたいものを通じて家族で話し合う機会の提供。季節や年中行事を活動に取り入れ、家庭での取り組みに思いを馳せる。 | 園芸の花は近くの事業所に持っていく時は子どもが運び、職員等とあいさつする機会をもつ。栽培した野菜は持ち帰って話題にしよう。 |
| 2 | 田んぼや畑での農作業体験、自然にふれたり季節を感じたりする活動、自分たちの収穫物で食につながる活動。 | 収穫物で調理や加工し、自身の収穫物に関心を持てるよう働きかける。 | 保護者とともに地域の行事に参加する中で収穫したもち米でもちをつく。 |
| 3 | 集団活動を基本として、あいさつや進行を子どもたちで協力して進め、友だち同士で評価し合う。 | 振り返りを必ず実施、子どもたちが気付かないでいるよかったことに気づけるようみんなの前で評価する。 | 集団参加が難しかったり、別のメニューに取り組んだりする子どもの評価も含めた振り返りの在り方 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 個別対応の支援内容やスペースの確保、構造化。 | あらかじめ示した集団活動への参加促しが中心で、別のメニューの提示という視点での働きかけが弱いのも要因。スペースは集団活動を中心に考えているため構造化が弱い。 | 個別に対応した形での参加促しや、集団参加ができる段階かどうか、別のメニューの提示が妥当かを子ども同士の関係性にも配慮しながら職員間で共有する。主な過ごしかたとその場所を話し合う。 |
| 2 | 家族会など保護者同士の交流等の機会提供 | 保護者の交流は行事に合わせて案内したが回数が限られ、案内も十分ではなかった。事業所での取り組みと法人家族会が連携した取り組みもあったがその周知が不十分。 | 参加しやすい曜日の設定や回数を増やす等して、年間計画をたててお知らせし参加しやすくする。また保護者交流のイメージが持てるよう企画を考える。法人家族会行事への積極的な案内。 |
| 3 | 地域住民や地域の子どもの交流 | 地域や地域の学校の行事に子どもと一緒に参加できるように取り組む内容の検討。 | ふだんの取り組みの発信 |

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | | | | | | 公表日 | 令和 8年 3月 31日 |
|---------|----|---|----|-----|---|---|-----|--------------|
| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | ○ | | 個別の課題の時には机やいすを用意、集団療育中は机やいすを動かして活動のスペースを確保。自由に過ごすときは、発達段階の異なる子どもたちがそれぞれお気に入りのスペースを確保できることを目指しています。また、のれんやしきりなどを使って居場所を分かりやすくする工夫。 | ほかの子の過ごし方を意識できるよう室内での過ごし方を指導、 | | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | ○ | | 支援には常勤職員を2名、非常勤職員を含めて常時3～4名で支援にあたっています。集団活動では進行の職員が内容によって、代わって指導に当たるようにしています。 | | | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | ○ | | 車いすが対応できます。手洗いやトイレには、必要に応じて職員が誘導します。当日の活動内容や送迎など、子どもたち自身で確認できるようにしています。 | 見通しを得るのにさらなる支援が必要な子どもには1対1で過ごし方表で流れを確認しますが、 | | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | ○ | | 毎日清掃、消毒を行っています。 | | | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | ○ | | 必要な時は別室を使用できます。ドアの脱着やパーテーション、のれんの使用などで個別のスペースに充てるなど柔軟に対応するようにしています。 | | | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | ○ | | 月1回のサービス担当者会議を開き、目標や評価、気になることや接し方を共有して支援にあたるようにしています。 | | | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | 本年度もアンケートを実施し、ご意見を賜りました。この自己評価に反映させています。ご協力ありがとうございました。今年は22家族中8通の返信をいただきました。 | 回答数をもっと増やすためにも日常のコミュニケーションが充実するようにします。 | | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | 毎月のサービス担当者(職員会議)で、意見や問題点の共有に努めています。 | | | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | ○ | | 保護者アンケートをもって第三者評価とし、業務改善につなげます。 | | | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | ○ | | 研修計画をたて、発達支援にかかわる研修、各自の関心に合った研修に参加できるよう情報提供に努めたほか、社協の出前研修を活用するようにしています。 | 情報の取得と周知 | | |

| | | | | | | |
|----------|----|--|---|--|---|---|
| 適切な支援の提供 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | ○ | | | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | ○ | | アセスメントで得られたニーズや課題を分析、計画に生かせるよう努めました。 | 家族の困り感や要望などが支援内容に反映できるようにアセスメントの分析と普段からの情報交換や聞き取り |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | ○ | | | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | ○ | | | 個々への働きかけや支援内容、その日の進行予定への落とし込みを通じた具体的な支援内容の共有 |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | ○ | | インテークにおいて標準的なアセスメントツールを設定し、使用しています。一方で家族の要望や困りごと支援や評価に反映できるように聞き取りに努めています。 | インテーク時のニーズの正確な把握 |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | ○ | | | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | ○ | | 現場のチーフが各職員の意向をあらかじめ把握したうえで児童発達支援管理責任者と協議、協議にあたって発達段階や関心の度合いなどを参加曜日によって内容に偏りがないよう留意しており、立案した内容は全員に事前配布しています。 | ひとりひとりの利用機会は限られており、自分が参加していない時の活動についても関心が持てるような工夫 |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | ○ | | 活動内容に変化をつけたり、曜日によって同じ内容が重ならないようにしたり、必要な時には個別対応をしたりするなど柔軟に取り組んでいます。 | |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | ○ | | 毎日の日課で集団療育と個別の時間を設定しています。ひとり一人の課題の支援の他、小集団での遊びや音楽、工作など楽しい活動になるよう働きかけています。 | 具体的な活動の要望等の把握 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | ○ | | 支援開始前に毎回ミーティングを行い、活動の狙いや職員の分担などを確認することとしています。 | |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | ○ | | 支援終了後の振り返りは翌日のミーティングで行い、支援内容の反省や子どもの様子などを共有し次の支援につなげていくようにしています。 | |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | ○ | | 連絡帳に記載した内容や目標にてらしての達成できたことや今後の課題などを記録しています。 | その子本来の目標にてらした達成状況や課題と、体調など大事なことではあっても本来のニーズではないこととの間には区別して記録する。 |

| | | | | | | |
|--------------|----|--|---|--|--|---|
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | ○ | | およそ半年に1回を目安にモニタリングを行うとともに、家族の期待や困り感を聞き取り、支援に反映できるようにしています。 | |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。 | ○ | | 毎日の日課で集団療育と個別の時間を設定しています。ひとり一人の課題の支援の他、小集団での活動や個別の取り組み、工作など楽しい活動になるよう働きかけています。 | |
| | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | ○ | | 集団療育の活動内容自体の選択肢は示しませんが、アプローチの仕方や参加の方法などで自分で選択したと思ってもらえるような対応をしています。 | 参加が難しい子どもには自分の選んだ過ごし方と集団活動とに折り合いをつけ、他の子にも共有してもらえるよう介入する |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | ○ | | 最もふさわしい職員が参画しています。 | |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | ○ | | 必要に応じて地域生活を支えるネットワークの構築や積極的な参画に努めています。 | タイムリーに情報共有ができ、支援に反映しているよう工夫する。 |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | ○ | | 学校へのお迎えの時に先生から様子を聞くなど情報の共有に努めるとともにケース会議やサービス担当者会議には積極的に参加しています。 | |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | ○ | | 相談支援専門員を通じて発達段階や家族の要望の把握をしています。また、サービス担当者会議の参加を通じて要望を聞いたり、事業所の説明をしたりして、情報共有と相互理解に努めています。 | 活動時のようす観察や保護者からの聞き取りなどで正確なニーズの把握や家庭支援の必要性を把握できるようにする。 |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | ○ | | 進路相談や進路先への情報提供を行うなどしています。地域生活支援事業につないたり、サービス担当者会議に参加したりしてアフターフォローを行ってきました。 | |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | ○ | | 必要に応じて相談支援事業所や児童相談所と情報共有したり助言を受けたりしています。また、総合支援協議会で助言や情報を受けるよう努めています。 | |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | ○ | | 従来取り組んできたコメ作り体験を通じて地域の小中学校に参加を呼び掛けたり活動内容を発信したり、さらに学校や地域の行事に参加して屋台を聞くなどの計画があります。休日には地域の公園で自由遊びをするなど地域での活動場所を求めています。 | コロナ禍以前には社協と連携して、社会貢献活動として乗馬体験教室の開催に参画、今後も連携の機会を志向していきます。 |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | ○ | | 玉野市総合支援協議会こども部会に参画しています。 | |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | ○ | | 必要に応じて面談し、成果や課題の共有に努めています。普段は連絡帳で様子をお知らせしていますが、送りの時にも直接お話ができるよう努めています。 | 成果や課題など簡潔で前向きな伝達になるよう、コミュニケーション力の向上。 |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | ○ | | 家族の困り感に対して、お話を聞いたり提案をしたりしています。7年度には行事に合わせて家族の方に参加を呼びかけ5家族の方から参加の意向がありました。 | ペアレントトレーニングの支援や家族交流の機会提供は現段階では十分ではありませんが、行事等を利用して家族同士の交流を図っていきます。 |

| | | | | | | |
|----------|---|--|---|--|--|--|
| 保護者への説明等 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | ○ | | 運営規程や支援プログラムは契約時に説明、利用者負担は利用開始時の他変更があった時などに、モニタリングの機会を使うなどして重説の別表で説明しています。 | |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | ○ | | | |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | ○ | | | 目の前の過ごし方や活動参加の促しが中心になってしまい、総合的な支援方針に説明が至らない事例がありました。 |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | ○ | | 必要に応じて家族とのやりとりの中で課題を汲み、助言できるようにしています。 | サービス担当者会議への積極的な参画。相談支援専門員を通じ必要な支援につなげられるよう関係機関への情報提供。 |
| | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | ○ | | 7年度は行事の際に家族参加を呼び掛け、5家族から参加の意向が示され、複数の家族参加ができましたがまだ一部にとどまっています。 | 今後は行事等での参加呼びかけの他に、家族主体の交流の場を検討します。 |
| | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | ○ | | 苦情の申し出は重要事項説明書に記載し、わかりやすく説明しています。もし苦情の申し出があった時は法人本部と連絡し、迅速に対応することとしており、その際申し出者には「苦情は宝」という認識で対応します。 | 申し出があった時、支援内容での要望かあるいは苦情として受け止める事例かの判断を誤らないようにする。 |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | ○ | | 通信の発行には至っていませんが、活動の概要は毎月のプログラムでお知らせしています。現状では季節に合わせた記事や感染症対策などプログラムの余白にお知らせとして掲載しています。 | |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | ○ | | 個人情報の扱いは新規契約時に文書で説明、適切に扱わせていただいています。写真等の可否は文書で回答をいただいています。 | 実際の使用場面でのひきつづき使用目的や使用範囲などについていけない確認。 |
| | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | ○ | | 連絡帳と送迎時の情報交換で意思疎通を図っております。必要に応じて子ども独自の連絡帳を作成し記入の支援までおこなっている例もあります | 意思疎通のツールと方法は個々の障害児により、あるいは家族間によっていろいろであり、普段から密な情報共有を図る。 |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | ○ | | | 夏祭りなど法人行事に参加する形で地域の方と一緒に過ごしたり地域と福祉の共同の行事に参加したりする機会の検討をしています。 |
| 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | ○ | | 大雨など警報発令時などには必要な対応をあらかじめ発信してきました。今後もより分かりやすい発信の仕方を工夫します。 | | |
| 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | ○ | | 月に1回の避難訓練、実施曜日も偏らないようにしていますがすべての子どもが参加することはできません。職員がどのように子どもを誘導できるかを意識しながら、避難の促しに努めます。 | 避難訓練はパターン化しないような設定 | |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|--|---|----------------|
| 非常時等の対応 | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | ○ | | 日常的に投薬情報の収集、予防接種の推奨などしてきました。 | 情報集約がしやすい環境づくり |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | ○ | | インテークの際には必ずアレルギーの有無をお尋ねしており、支援が必要な場合には支援計画に記載することとしております。 | |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | ○ | | 事故報告はもとよりヒヤリハットの共有で潜在的な危険に気づき安全に過ごせるよう気をつけています。 | |
| | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | ○ | | 個別支援の範疇での支援の留意点にとどまっています | |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | ○ | | 作成し職員間で共有しています。支援の見直しや家族や関係機関との情報共有の判断の基にしています。 | |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | ○ | | セルフチェック、拠点内の虐待防止委員会への参加と虐待防止責任者を選定し、不適切な対応は小さなうちに解決するよう日常的に話し合いを持っています。 | |
| | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | ○ | | | |

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

| | |
|------|--------|
| 事業所名 | こだまクラブ |
|------|--------|

公表日 R8年 3月 31日

利用児童数 R8年 3月 6日現在 22家族27名 回収数 10通

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|------------------------|---|---|----|---------------|-----|-------|---|---|
| 環境・ 体制 整備 | 1 | こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。 | 6 | 4 | | | ○屋外活動は多いが屋内は不十分、個別スペースが足りない ○壊れているものは撤去してほしい | ○集団活動のスペースの確保のため個別のスペースが十分ではありません。特に必要とする子どもが過ごす場所の確保を工夫していきます。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切であると思いますか。 | 7 | 3 | | | ○適切だとは思いますが、多ければ…と誤ってしまいます。 ○多ければ多い方がよいが決まっている事なので仕方ない ○力量、知識、技術の差が大きい。 | 接し方や活動のねらいなどいっそう共有して、どの職員でも同じ対応が得られるよう努めます。 |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。 | 7 | 2 | | 1 | | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。 | 7 | 1 | 1 | 1 | | |
| 適切 な 支 援 の | 5 | こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。 | 8 | 2 | | | ○専門職（有資格者等）の職員が配置されていてもそれぞれ力量の差を感じる。 | ○接し方や指導方針の共有を個別の児童に対して行っていきます。 |
| | 6 | 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。 | 8 | 2 | | | | |
| | 7 | こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。 | 7 | 2 | | 1 | | |
| | 8 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 | 7 | 2 | | 1 | | |

| | | | | | | | | | |
|----------|----|--|---|---|---|---|--|---|--|
| 提供 | 9 | 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。 | 7 | 3 | | | | | |
| | 10 | 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。 | 8 | 1 | | 1 | ○いろいろなことをさせていただいて本当にありがとうございます。 | ○活動内容にばらつきがあるので、自分が来てない日の活動についてもお知らせできるよう工夫しています。 | |
| | 11 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。 | 2 | 1 | | 7 | ○地域の子どもの交流は分からない。 ○日数が少ないので交流できていないと思います。 ○分かりません。 | ○地域の公園等での自然発生的なものはありましたが、組織的なものではありません。今後どのような機会が実現可能か模索していきます。 | |
| 保護者への説明等 | 12 | 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。 | 8 | 2 | | | | | |
| | 13 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。 | 7 | 1 | 1 | 1 | ○できていない、相談支援でされているが共有できているか疑問。 | ○支援内容についての相談が当面の過ごし方になってしまったためと考えています。 | |
| | 14 | 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。 | 5 | 4 | | | 1 | ○連携はありません。 | 家族にも参加がしやすいと思われた研修会のチラシ等は配布するようにしています。クラブ独自の取り組みにはまだ至っていません。 |
| | 15 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。 | 9 | 1 | | | | | |
| | 16 | 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 | 5 | 4 | | | 1 | | |
| | 17 | 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。 | 6 | 4 | | | | | |
| | 18 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。 | | 4 | 3 | | 3 | ○保護者会は分からない。コロナの関係で活動がストップしているのかもしれない、以前はあったと聞いている。 | ○行事等の機会を活用して保護者の交流を図りたいと思います。昨年は新米パーティーに参加をご案内し5家族の参加の意向をいただきました。(インフルエンザのため2家族にとどまりました) ○保護者による交流の場を検討します。 |

| | | | | | | | | |
|---------|----|--|-----|----|----|----|--|---|
| | 19 | こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 | 6 | 3 | 1 | | ○トラブル事案の解決は最終的に保護者任せのように感じる、選択肢が少ないためこどもが納得できないままということも多い。相談の対象としての体制が整っていると思えない、期待していません。 | ○個々の子どもへの働きかけは、どのようにすれば集団活動に参加できるかの一点だった感は否めません。今後は多様な過ごし方を認めながら集団活動との接点を探って行きたいと思います。 ○相談に応じられる体制作りとして、複数の職員が日常的に保護者と接することができるようにしてまいります。 |
| | 20 | こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。 | 5 | 5 | | | | |
| | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。 | 5 | 3 | 1 | | | |
| | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。 | 7 | 2 | | 1 | | |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 8 | | 1 | 1 | | |
| | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | 9 | 1 | | | | |
| | 25 | 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。 | 8 | 2 | | | | |
| | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。 | 6 | 2 | 1 | 1 | | |
| 満足度 | 27 | こどもは安心感をもって通所していますか。 | 8 | 1 | | 1 | ○近隣の事業所が少ないため選択の仕様が ない。満足度より居場所の確保。 | ○19と同様、事業所の選択肢が少ない以上、過ごし方に選択肢がないと満足度につながりません。単一の体制や促しから複数の物への切替を試行していきます。 |
| | 28 | こどもは通所を楽しみにしていますか。 | 8 | | 1 | 1 | ○近隣の事業所が少ないため選択の仕様が ない。満足度より居場所の確保。 | ○同上 |
| | 29 | 事業所の支援に満足していますか。 | 7 | 3 | | | ○近隣の事業所が少ないため選択の仕様が ない。満足度より居場所の確保。 | ○同上 |
| | | | 191 | 65 | 10 | 23 | | |